

平成30年度 浦和麗明高等学校 学校自己評価シート

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校目標	建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを探求する。			達成度	次年度の課題と改善策		
本年度の目標	(1) 教育理念及び教育方針の徹底 (4) 安心・安全な教育環境の整備	(2) 基本的マナーの習得と生徒指導の徹底 (5) 「六つの生徒指導心得」の徹底	(3) 進学実績と進学率の向上 (6) コミュニケーション力の向上	A B C D	ほぼ達成 (8割以上) 概ね達成 (6割以上) 変化の兆し(4割以上) 不十分 (4割未満)		
評価項目	現 状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策	学習指導要領 評価項目 各科目6月11日 学習指導要領 意見・要望評価等
1 教員授業力 強化の取組 教育環境の 充実	・生徒(コース)により予習、復習に対する姿勢に差が見られる。 ・昨年度よりもさらに入試基準を上げたため、学習能力及び意欲の高い生徒が増えている。 ・不審者対応として監視カメラの設置が完了したので、今後活用されるはずである。 ・災害対策においては、さらなる意識の共有化、備蓄品の充実が求められる。	・基礎学力の底上げ ・生徒の関心をひくような授業の組み立て ・予習復習の意義の徹底 ・教科指導部との連携により、スディサプリ、DMM英会話を有意義に活用する ・長期休暇中の課題提供およびその確認を行う ・日々の施設、備品安全管理点検 ・避難訓練の実施 ・授業時の非常食確保 ・災害時の非常食確保 ・救急救命講習の実施 ・節電の奨励	・基礎学力の定着 ・教科への興味、意欲の向上 ・学習習慣の定着 ・授業満足度の向上 ・授業力の向上 ・試験前の学習習慣の定着 ・防災対策(備蓄品を含む)の確認 ・環境衛生面の安全の確認 ・美観等の確保	・スタディサプリの実施が定着し、学力向上が期待できる ・朝夕ともに自習室で学習する生徒が増加している ・定期試験前日学校に残り教員に質問する生徒が増え、学習への意欲の向上が感じられる。 ・火災訓練、非常放送、消火訓練、避難訓練の定期点検の実施 ・校舎施設、備品の安全点検の実施 ・空気、照明、照度、飲料水の定期点検の実施 ・災害対策備蓄品の確保 ・通学路におよび防犯意識の徹底 救急救命講習の実施	B	・授業時間の確保 ・学力の高い生徒に対する授業力の向上 ・成績向上をなくするための指導徹底 ・長期休暇における課題の提供 ・効果的な教室配分 ・少人数対策としての空席使用の工夫、制限	・安心、安全な教育環境の確保(増えている) ・授業時間について50分授業のところ45分授業の実施とこのことなので、授業時間確保を維持してほしい。
2 進路指導 の充実	・3年生は福祉系・動物系・調理系のコースがあり、専門学校の進学希望者が多い状況である。 ・医療系の大学を希望する生徒が増加している。今年度は看護科だけでなく臨床工学の希望者も3名いる。 ・大学・短大現役進学率の向上を目指している。 ・上位大学の合格数の増加については5ヵ年計画で進んでいる。 ・保育進学の80%以上は大学・短大を希望しているが、5名就職を希望している。 ・進学費半減 就職希望者は6%と減少している。 ・大学進学率の増加による上位校への推薦・AO対策の必要性が今までより求められる。 ・保護者の大学進学への意識が高まってきている。	・進学校への連携強化について、教員意識の向上を図る。 ・各学年会における目標値の設定 ・目標値における中期の目標と対策 ・的確な時期の推薦会議、進学イベントの実施 ・1年生は「職業を知る」2年生は「学びの分野を知る」テーマで生徒の視野を広げるための進路指導を推進する。 ・3年間で10回の面談を実施。年度末に生徒の満足度を確認。 ・受験対策の徹底(一般受験・推薦受験・AO受験) ・教科指導部との連携を推進 ・すべての生徒を見捨てない。大事にする指導の徹底。 ・進学先との連携強化 ・データ関係の構築 ・保護者への対応(面談、説明会等)	・目標値を設定する。 A目標=最大限達成可能な目標 B目標=最低限達成可能な目標 ・3年大学・短大現役進学率 A目標 66%、B目標 60.4% ・2年大学・短大希望者目標値 A目標 75%、B目標 70% ・1年大学・短大希望者目標値 A目標 85%、B目標 80% ・特選の進路状況(上位大学の合格数) ・専門学校合格状況 ・就職状況	・3年生の大学・短大進学率は67.4%であり最大目標を達成することができた。 ・1・2年生の大学・短大希望者目標については、最大目標を大幅に超え、1年91.6%・2年75.2%となった。 ・3年生の特選を中心とした上位大学については、埼玉大学、群馬県立大学、埼玉県立大学など国立大学6名合格、明治大学1名、立教大学2名、中央大学8名、法政大学1名とMARCH12名合格、その他、日本女子大学6名、東京薬科大学5名、獨協大学7名、國學院大学4名、埼玉医科大学4名、東洋大学6名、日本大学2名、順天堂大学看護、神田外語大学、成城大学、東京農業大学各1名ずつ合格した。 ※MARCH・成成圏レベル47名合格 ※日東駒専・大東亜圏レベル50名合格 ・専門学校27名、就職4名合格	B	・女子高最後の3年生であり、入学時の偏差値は上位層がよい。この状況で、下記の目標値を設定する。 ※大学・短大現役進学率75%以上 ※国立・早慶上理 ※MARCH・成成圏レベル ※日東駒専・大東亜圏レベル ・男女共学となる、1・2年生においては大学・短大希望者目標を85%以上と設定する。 ・小論文指導を徹底し、上位大学合格を目指す。 ・3年間で10回の面談を実施する。 ・進路情報センターとしての進路指導室の活用を促す。また、受験結果入力システムの完成を目指す。 ・高大連携プログラムの実施、進学相談会の実施、キャリアアップセミナーの実施など、進学行事の充実を図る。	・きめ細やかな進路指導については評価できる。次年度高大連携プログラムを実施しようだが、どこまで連携しているのか。また、キャリアアップセミナーの具体的な内容はどうか。ともに内容のあるものになることを望む。
3 生徒指導 の充実	・元気がある挨拶をする生徒が増加しているが、まだ挨拶行為(しっかりと声を出すこと)に抵抗感を示す生徒も見受けられる。 ・規範意識や交通安全に対する意識が希薄な生徒が若干見受けられる。 ・遅刻に関しても5分前登校の意識が若干低い生徒がいるものの、全体的に時間厳守を積極的に行うとする生徒の割合は高い。 ・学校生活を意識的に送ることできない生徒は減ってきている。 ・1学年の男女間のトラブルは殆どなく、互いに尊重し合う関係性を保っている。	・生徒通学路において、生徒会等代表者による挨拶運動を行い、生徒間の挨拶の活性化と習慣づけを図る。 ・全職員による積極的な交際、廊下での挨拶の徹底、外部からの来校者に対し、生徒からの自主的挨拶の徹底。 ・玄関と教室での来校者の二重チェック。遅刻率0.3%(40人学級で2人/月)の目標値をクラス、学年毎に徹底をさせる。 ・生徒心得・身体面の心得を全校生徒に配布、指導することにより、長期休暇中の生徒のあり方を把握して徹底させる。 ・クラブ活動の積極的参加と共に、継続的な活動させる。 ・通学路における要素における交通安全指導	・遅刻、欠席者の減少 ・問題行動の減少 ・活気のある学校生活 ・頭髪服装等違反者の減少 ・退学者の減少 ・自転車運転違反者の根絶 ・交通ルールの遵守 ・課外活動の活性化 ・通学路の環境整備	・生徒会代表者による挨拶推進運動など登校時の交際(生徒通学路)での挨拶回数が増加してきた。 ・学期ごとに行われる全校朝読書等風紀指導等により全体的には落ち着いてきており、問題対象となる女子生徒の人数は激減、男子生徒も初めからの指導により細かい部分での指導を要しなくなった。 ・警察、鉄道警察隊と連携をとり講師を依頼して防犯・交通安全指導を取り入れている。 ・専任カウンセラーによる精神的なケアにも力を入れている。 ・自転車マナーアップの推進校としての意識の向上を図っており、登下校時による指導対象者もほとんどいない。 ・自転車マナーアップの推進校としての意識の向上を図っており、登下校時による指導対象者もほとんどいない。	A	・担任による生徒指導の徹底及び学年主任との連携を図る。 ・8時26分(始業5分前)登校の徹底。 ・登下校時、校舎内ならびに来校者に対する挨拶の徹底を図る。 ・遅刻、欠席者の状況把握と共に早期指導に重点を置き、問題行動や退学者の防止に努める。 ・友人関係の変化にも着目しながらの二者面談、アンケートの実施により、いじめの未然防止に積極的に対応する。 ・学校行事、課外活動に参加を促し、活気ある学校とする。	・学力の向上、個性の活性化と活気ある学校へと変化が見られるが、挨拶ができていない学校の伝統に関しては継続を望む。 ・評価指標において、減少とあるが具体的な数値を記載しても良いのではないかと。
4 教科指導 の充実	特選/特進コースの生徒について ・目標設定・目標値を合格率の高い大学に設定する生徒が見受けられる。 ・定期試験と外部模試の成績の乖離が大きい生徒も存在する。 特選/特進以外のコースの生徒について ・中学校学習内容に関して再学習を必要とする生徒も存在する。 ・実力がありながらも、目標値の定まらない生徒もいる。	・毎日のリテラシーを徹底して行い、基礎学力を定着させる。 ・「スタディサプリ」と連動した授業を展開し、効率良く受験対策を行う。 ・到達度テストと連動した「スタディサプリ」の課題学習を充実させる。 ・予備校帰前による模試対策を意識した「土曜補習」を充実させる。 ・長期休暇講習の充実と参加人数の増加を図る。 ・DMM英会話を積極的に利用してもらうために、テキストのコピーを図書室に置く。	・各模範試験の途中経過(前年比と前回比)を定点観測してきた。 ・最終的な大学合格実績 ・各種検定の受験者数と合格者数	・特選/特進コースもそれ以外のコースも大学合格実績は年々向上してきている。 ・模範試験に関しては、年々全体的に良くなっており、特に成績上位者が増加している。 ・英検2級・準2級の合格者が増加している。 ・スタディサプリと連動した授業もおおむね順調に実施できた。 ・総合学習、スタディサプリ等、ポートフォリオなどを行うにあたり、タブレットは積極的に活用できた。	B	・進路指導部と連携し、大学の合格状況が更に向上するようにする。 ・進路意識を高めるために、アクティブラーニングを中心とした総合学習を更に充実させる。 ・DMM英会話を授業・英検対策などでより一層活用するようになる。 ・ベネッセのシステムClassiを導入し、進路指導の効率化を図る。 ・朝の小テスト、授業中の小テストなどを更に充実させて、基礎学力の定着を徹底する。	DMM英会話の使用状況はどうか。また、システムClassiでの内容については保護者にも提供を望む。
5 広 報 広 報 活 動 の 充 実	・入学者数 462名 (男226名、女236名) 127% 特選Ⅰ 135名 (男66名、女69名) 47% 特選Ⅱ 40名 (男22名、女18名) 17% 特進Ⅰ 40名 (男23名、女17名) 17% 特進Ⅱ 39名 (男19名、女20名) 17% 進学 165名 (男95名、女70名) 47% 保育進学 43名 (男1名、女42名) 17% ・単願入学者 287名 併願入学者 175名 単併比率 61.9/38.1% ・男女比率 48.9/51.1%	上位層獲得の為の方策 ・コース再編 特選ⅠⅢⅣ、特進ⅠⅡ ・男子学生確保のため、掲載記事の工夫、留習動体場整備 ・説明会・個別相談会：北沢結果の出席継続日実施 ・オープンスクール：10・11月2回実施 ・地域関係強化：15ヵ所 上位層獲得が見込まれる大学以上強化 ・徹底した塾生見直し 相談者の多い地区に担当者を増やし、中学校説明会期間短縮 同日、早めに対話時間実施	・入学者数と単願・併願の数 ・単願200 併願120 ・奨学生数の前年並み ・入学者数の上位の塾	・入学者数 300名 (男155名 女145名) 87% 特選Ⅰ 61名 (男26名 女35名) 27% 特選Ⅱ 35名 (男20名 女15名) 17% 特進Ⅰ 40名 (男27名 女13名) 17% 特進Ⅱ 80名 (男37名 女43名) 27% 特進Ⅲ 84名 (男45名 女39名) 27% ・単願 177名 併願 123名	B	・特選Ⅱの入学者を増やす(再編り、上丹波前の特選Ⅲは18名と少ない) ・重点塾生を強化 ・進学を強く、広報部長が効果的に宣伝(上位層進学者への効果的宣伝、営業) ・タブレット使用の授業風景、DMM英会話の風景の発信 ・説明会7回、個別相談会を6回開催 ・オープンスクールを8月2回実施する(中学生の行動するタイミングを逃さない)	・学習定員の確保と、学校のタイムリーな情報の発信を望む。

